

スマホアプリで読図講習会記録

講師：東秀訓氏(日本山岳会学生部)

I 11/7 浦和コミセンで座学

1、スマホ GPS を活用すると道迷いを減らすことができる。

〔ホワイトアウトの時 GPS があれば何とか動ける。ただし、紙の地図から情報を読み取る能力を向上させることも大切〕〔登山口と下山口の確認〕〔登山道の特徴を等高線を見てイメージする。尾根・谷・山の斜面・方角・分岐点の有無・ピーク・コルの状況〕そこで従来の2万5千分の地図ではなく、国土地理院の電子国土基本図の利用を勧める。(インターネットで無料で閲覧保存が可能)

2、国土地理院の電子国土基本図の使い方

〔地図を印刷したら、尾根線、谷線をペン入れする〕〔磁北線を入れる〕〔赤色立体地図を重ねると地図が立体的になる〕〔衛星写真を重ねる〕〔電子国土の地図は A4 が基本なので、ジップロック(A4 サイズ・100 円ショップにある)に地図を入れて地形図の先読みと短いスパンで特徴物をとらえることが大切〕ここからスマホの使い方に入り、 아이폰とアンドロイドで使えるアプリが違うので、各自家でアプリを入れてくることにして、基本的な使い方について話した。

3、スマホの使い方(아이폰とアンドロイド)

〔 아이폰の方が GPS の精度は高い。(アンドロイドも実地で十分使えた)〕〔スマホは入山してからも天気アプリの「SCW」や「GPV 気象予報」などで雨雲の移動などの予報が入手できるので便利〕〔落とさないようにゴムカバーに紐を付ける〕〔登山用アプリは地図をインターネットから「キャッシュ」という仕組みで、地図をスマホに保存できるので、圏外(山の中)でも使える〕〔機内モードにすることで電力消費を少なくして GPS が使える〕〔ただし古いスマホ(特にアンドロイド)では機内モードにすると GPS が使えないものがあるので注意〕〔精度を高めるには日付と時刻を自動設定にして正確にする。位置情報(GPS)設定をオン〕〔バッテリー節約の設定は位置情報サービス(GPS アプリ)の使用中的み許可に設定。機内モードにすること。いくつかの ON、OFF の設定〕〔バッテリーの持ちは、冬の低温時はバッテリー電圧が下がるので(すぐ使えなくなる)体に付けて暖めておく。カイロを貼っても、カイロは体からの湿気が発熱に必要なので、ザックに入れては暖まりにくい。また、予備バッテリーとケーブルは必携。(아이폰ならアンカーというメーカーのケーブル一体型のものが忘れなくてよい)〕



4、地図アプリについて

代表例：ジオグラフィカ、ヤマップ(아이폰とアンドロイド両方あり)、フィールドアクセス(아이폰のみ 400 円から 500 円かかる)

私はアンドロイドにヤマップを入れたが無料でできた。ただし、プレミアムのメニューはクレジットカードの番号を設定する必要があった。

11/17 大高取山で実地講習

予報では天気が心配だったが、9 時越生駅に支部長以下 9 名が集まった。一日暖かくて最高の講習日和だった。



まず、駅のそばのあずまやで講師からジップロック入りの地図を受け取り、GPS のスイッチオン。私はアンドロイド版のヤマップだったが、あずまやの屋根の下では電波を拾わず、屋根の外に出たら GPS が働くのを確認した。林間でも地図のルートと微妙に歩いたコースがずれたりしたがほとんどあっていて安心した。スマホの地図は拡大縮小が自在で、込み入った山中の細い道は拡大し、目標地点が離れているときは縮小して、おおまかなコースの確認ができ大変便利だった。OL ポイントを目指すうち途中から道を間違えたときも、GPS 軌跡でどこにいるかがわかるので簡単に正しいコースに戻れた。幕岩で昼食後、3 分おきに出発した 2 人 1 組の 4 組は、各 OL ポイントをチェックしながら虚空蔵尊まで行くことになった。各組はそれぞれ GPS の地図を確認しながら、軌道修正して全員無事にゴールへ到着した。

私は、機内モードにしなかったため半日でバッテリーが 15% になり午後は充電しながら操作したので予備バッテリーは必携と感じた。充電コードの端子は数サイズあるので自分のスマホに合うもの確認のこと。東講師は、スマホ GPS と紙の地図の読図能力を併用しての読図ができることが望ましいと説明した。

虚空蔵尊から越生駅へは勝手知ったる道をのんびり歩いて、朝のあずまやで解散式を行った。スマホ GPS の威力を感じた 1 日だった。

飯塚雅信記